

中小企業景況調査報告書

2025年7～9月期実績

2025年10～12月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。

調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

- ①調査対象時期：2025年7～9月期の実績及び2025年10～12月期見通し
- ②調査期間：2025年8月19日～9月4日 ※調査時点は2025年9月1日

(2) 調査方法

- ①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
- ②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

- ①人口～9,999人 せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別
枝幸町、安平町、鹿追町、弟子屈町
- ②人口10,000～29,999人 七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町
- ③人口30,000人～(市に含まれる) 石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ、音更町

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	48	45	93.8%	小売業	86	86	100.0%
建設業	51	50	98.0%	サービス業	115	105	91.3%
合計				合計	300	286	95.3%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

(5) D I = ディファージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。

例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不变」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は $50-20=+30$ となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況（前年同期比、前期比の推移）※D I 値のみ

業種	前年同期比		前 期 比					
	今期	来期見込	R6. 7-9	R6. 10-12	R7. 1-3	R7. 4-6	今期	来期見込
製造業	▲ 35.6	▲ 31.1	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.6	▲ 24.4	▲ 28.9
建設業	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 8.0	0.0	▲ 28.0
小売業	▲ 22.3	▲ 22.7	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 16.9	▲ 13.0	▲ 24.7
サービス業	▲ 19.3	▲ 17.3	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 23.6	▲ 18.3	▲ 12.5

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6.10~12	R7.1~3	R7.4~6	今期	来期見込
業況	好 転	0.0	2.2	4.5	0.0	6.7	6.7	2.2
	不 変	64.4	64.5	63.7	59.5	60.0	62.2	66.7
	悪 化	35.6	33.3	31.8	40.5	33.3	31.1	31.1
	D・I	▲ 35.6	▲ 31.1	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.6	▲ 24.4	▲ 28.9
売上(加工)額	増 加	15.6	8.9	13.6	7.1	37.8	22.2	
	不 変	40.0	57.8	45.5	35.8	33.3	46.7	
	減 少	44.4	33.3	40.9	57.1	28.9	31.1	
	D・I	▲ 28.8	▲ 24.4	▲ 27.3	▲ 50.0	8.9	▲ 8.9	
資金繰り	好 転	0.0	0.0	2.3	2.4	2.3	0.0	
	不 変	77.3	70.5	81.4	80.5	81.8	79.5	
	悪 化	22.7	29.5	16.3	17.1	15.9	20.5	
	D・I	▲ 22.7	▲ 29.5	▲ 14.0	▲ 14.7	▲ 13.6	▲ 20.5	
原材料 仕入単価	上 昇	68.2	55.8					
	不 変	31.8	44.2					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	68.2	55.8					
採算(経常利益)	好 転	6.7	2.2					
	不 変	51.1	57.8					
	悪 化	42.2	40.0					
	D・I	▲ 35.5	▲ 37.8					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

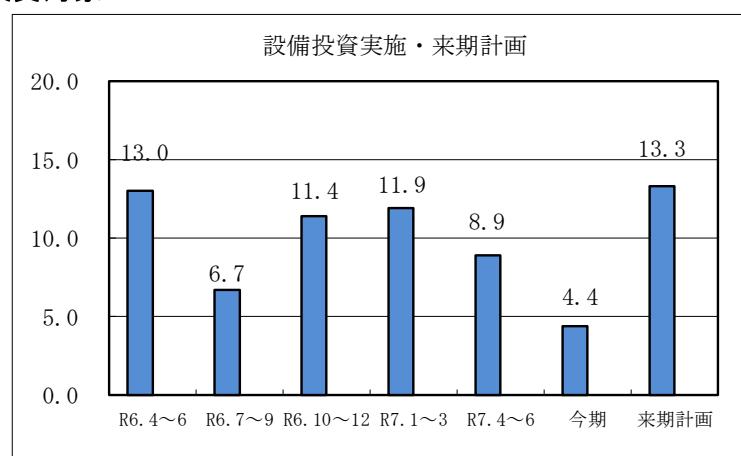
回答45事業所の内、2事業所(4.4%)が実施。

●生産設備=2事業所、●OA機器=1事業所

【来期計画内容】

回答45事業所の内、来期に6事業所(13.3%)が計画。

●生産設備=4事業所、●車両・運搬具、付帯施設、OA機器=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による)

1位は前回同様1位だった「原材料価格の上昇」で、10.0ポイント上昇している。2位は、前回3位だった「需要の停滞」で、5.0ポイント増加している。3位は、前回2位だった「生産設備の不足・老朽化」で、2.5ポイント減少している。4位は、前回同様の「製品ニーズの変化」で、同0.0ポイントの10.0。5位は前回番外だった「原材料の不足」で、2.5ポイント減少している。



建設業		主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）						
項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6.10~12	R7.1~3	R7.4~6	今期	来期見込
業況	好 転	10.0	6.0	2.0	0.0	8.0	16.0	2.0
	不 変	62.0	66.0	80.4	75.0	76.0	68.0	68.0
	悪 化	28.0	28.0	17.6	25.0	16.0	16.0	30.0
	D・I	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 8.0	0.0	▲ 28.0
完成工事(請負工事)額	増 加	24.0	8.0	15.7	8.3	28.0	34.0	
	不 変	44.0	66.0	62.7	58.4	44.0	46.0	
	減 少	32.0	26.0	21.6	33.3	28.0	20.0	
	D・I	▲ 8.0	▲ 18.0	▲ 5.9	▲ 25.0	0.0	14.0	
資金繰り	好 転	6.1	6.1	2.0	0.0	4.0	10.2	
	不 変	83.7	73.5	86.0	85.1	76.0	81.6	
	悪 化	10.2	20.4	12.0	14.9	20.0	8.2	
	D・I	▲ 4.1	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 14.9	▲ 16.0	2.0	
材料 仕入単価	上 昇	66.7	64.6					
	不 変	33.3	35.4					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	66.7	64.6					
採算(経常利益)	好 転	4.0	4.0					
	不 変	64.0	60.0					
	悪 化	32.0	36.0					
	D・I	▲ 28.0	▲ 32.0					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

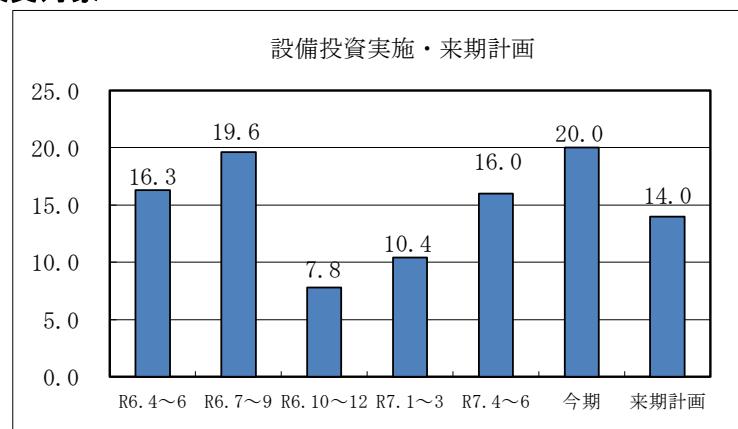
回答50事業所の内、10事業所(20.0%)が実施。

- 建設機械、車両・運搬具=各4事業所、●土地、OA機器=各2事業所

【来期計画内容】

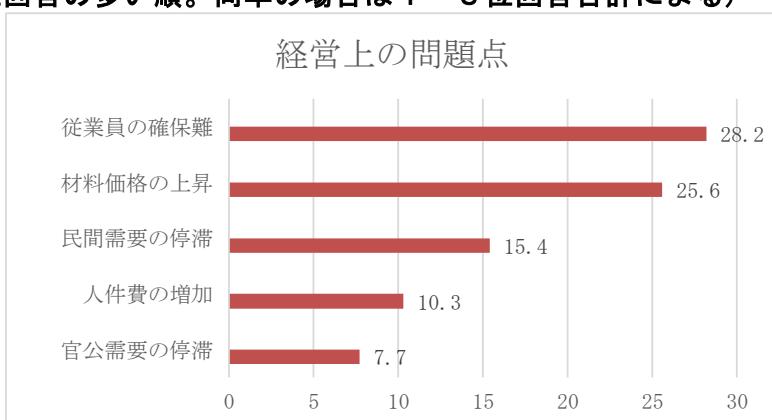
回答50事業所の内、来期は7事業所(14.0%)が計画。

- 建設機械=3事業者、●車両・運搬具、OA機器=各2事業所、●土地=1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による)

1位は前回2位だった「従業員の確保難」で5.9ポイント減少した。2位は前回1位だった「材料価格の上昇」で、3.7ポイント減少した。3位は前回同様の「民間需要の停滞」で0.8ポイント増加した。4位は前回番外の、「人件費の増加」で、5.4ポイント増加した。5位は前回4位であった、「官公需要の停滞」で、0.4ポイント増加した。



小売業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6.10~12	R7.1~3	R7.4~6	今期	来期見込
業況	好 転	10.6	7.1	2.3	3.6	9.6	9.4	5.9
	不 変	56.5	63.1	66.3	51.8	63.9	68.2	63.5
	悪 化	32.9	29.8	31.4	44.6	26.5	22.4	30.6
	D・I	▲ 22.3	▲ 22.7	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 16.9	▲ 13.0	▲ 24.7
売上額	増 加	27.9	10.5	17.4	16.9	27.1	29.1	
	不 変	44.2	58.1	50.0	37.3	34.1	44.2	
	減 少	27.9	31.4	32.6	45.8	38.8	26.7	
	D・I	0.0	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.9	▲ 11.7	2.4	
資金繰り	好 転	5.9	4.7	1.2	3.7	4.7	4.7	
	不 変	75.3	75.3	80.9	65.8	75.3	77.7	
	悪 化	18.8	20.0	17.9	30.5	20.0	17.6	
	D・I	▲ 12.9	▲ 15.3	▲ 16.7	▲ 26.8	▲ 15.3	▲ 12.9	
商品 仕入単価	上 昇	65.9	55.3					
	不 変	31.7	43.5					
	低 下	2.4	1.2					
	D・I	63.5	54.1					
採算(経常利益)	好 転	12.8	7.0					
	不 変	51.2	61.6					
	悪 化	36.0	31.4					
	D・I	▲ 23.2	▲ 24.4					

○設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

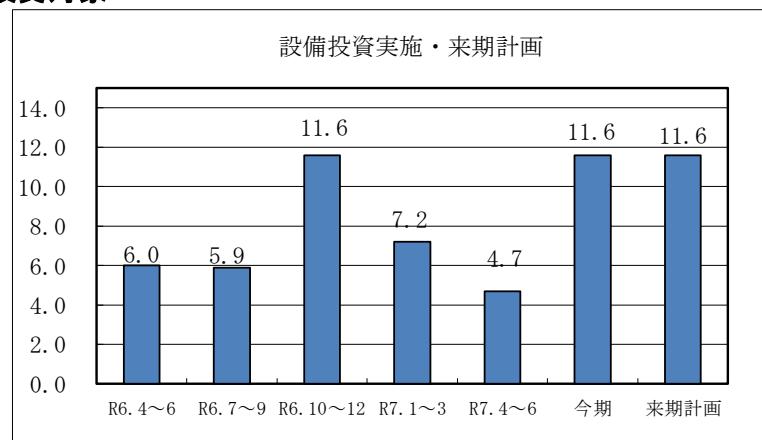
回答86事業所の内10事業所(11.6%)が実施。

●販売設備=4事業所、●車両・運搬具=3事業所、●OA機器=2事業所、●店舗、付帯施設、その他=各1事業所

【来期計画内容】

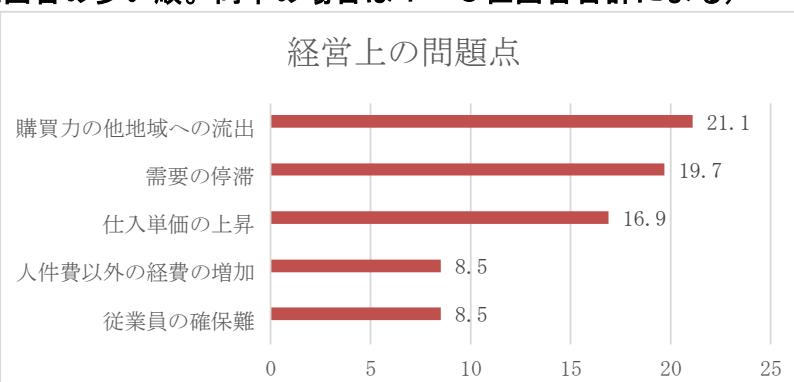
回答86事業所の内、来期は10事業所(11.6%)が計画。

●販売設備=4事業所、●OA機器=3事業所、●店舗、車両・運搬具=各2事業所、●土地、その他=各1事業所



○今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による)

1位は前回同様、「購買力の他地域への流出」で、3.0ポイント増加した。2位は、前回3位だった「需要の停滞」で、5.8ポイント減少した。3位は、前回2位だった「仕入単価の上昇」で、1.6ポイント増加した。4位は前回番外の「人件費以外の経費の増加」で、0.2ポイント増加した。5位は、前回番外の「従業員の確保難」で、4.3ポイント増加した。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 10~12	R7. 1~3	R7. 4~6	今期	来期見込
業況	好 転	6.7	4.8	7.5	4.9	6.6	4.8	5.8
	不 変	67.3	73.1	64.5	56.9	63.2	72.1	75.9
	悪 化	26.0	22.1	28.0	38.2	30.2	23.1	18.3
	D・I	▲ 19.3	▲ 17.3	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 23.6	▲ 18.3	▲ 12.5
売上(収入)額	増 加	25.7	14.3	11.2	8.8	24.3	28.6	
	不 変	53.3	64.7	58.0	50.0	39.3	52.4	
	減 少	21.0	21.0	30.8	41.2	36.4	19.0	
	D・I	4.7	▲ 6.7	▲ 19.6	▲ 32.4	▲ 12.1	9.6	
資金繰り	好 転	4.0	4.0	3.8	2.0	3.8	5.0	
	不 変	76.0	77.2	78.9	70.0	75.0	76.2	
	悪 化	20.0	18.8	17.3	28.0	21.2	18.8	
	D・I	▲ 16.0	▲ 14.8	▲ 13.5	▲ 26.0	▲ 17.4	▲ 13.8	
仕入単価(材料等)	上 昇	64.1	51.5					
	不 変	34.9	46.6					
	低 下	1.0	1.9					
	D・I	63.1	49.6					
採算(経常利益)	好 転	6.7	3.8					
	不 変	61.9	67.6					
	悪 化	31.4	28.6					
	D・I	▲ 24.7	▲ 24.8					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

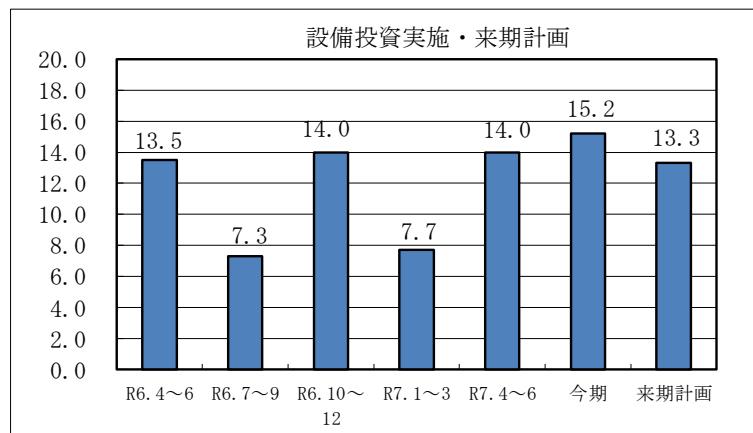
回答105事業所の内、16事業所(15.2%)が実施。

●車両・運搬具=6事業所、●建物=4事業所、●付帯施設=3事業所、●土地、サービス=各2事業所、●OA機器、その他=各1事業所

【来期計画内容】

回答105事業所の内、14事業所(13.3%)が計画。

●サービス、車両・運搬具=各4事業所、●OA機器=3事業所、●付帯施設=2事業所、●建物、福利厚生施設、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点(1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による)



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率 - 「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

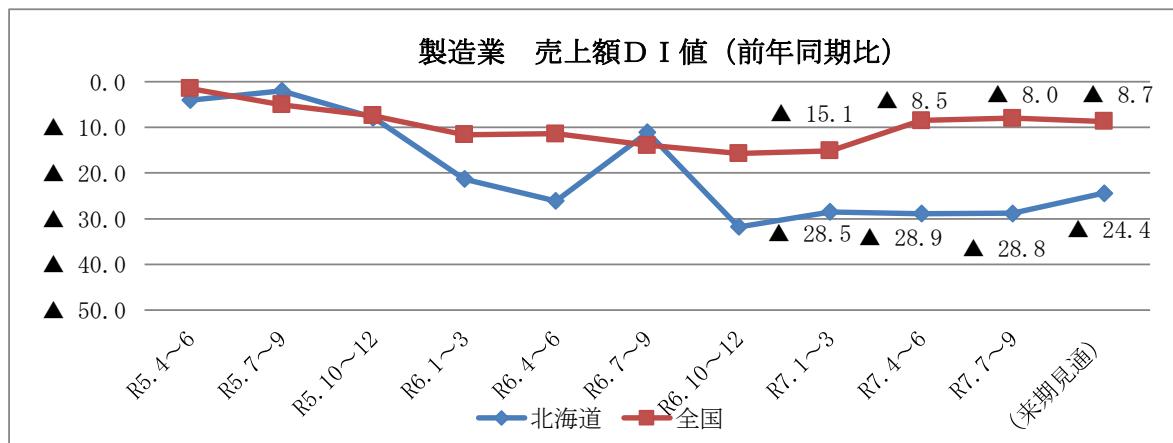
【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少

(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

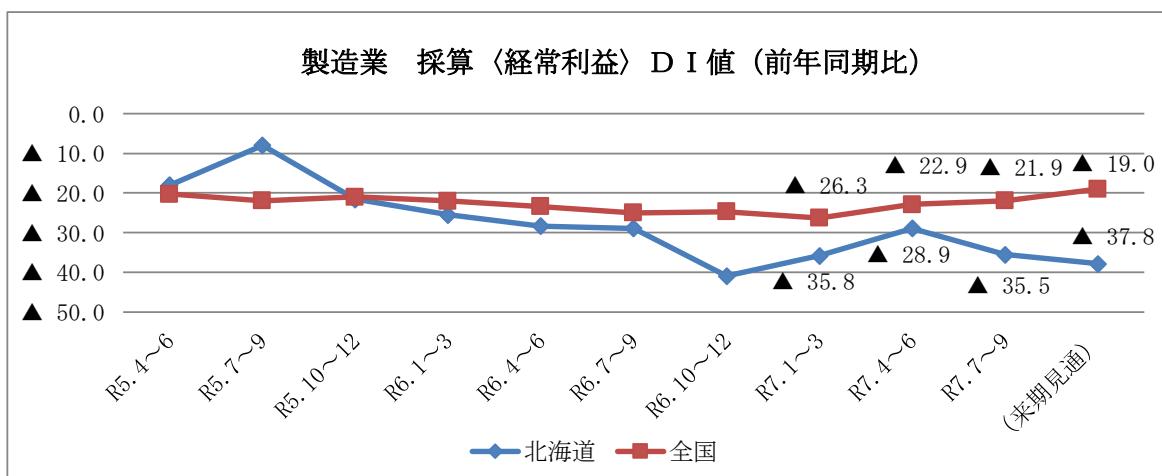
【全 国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

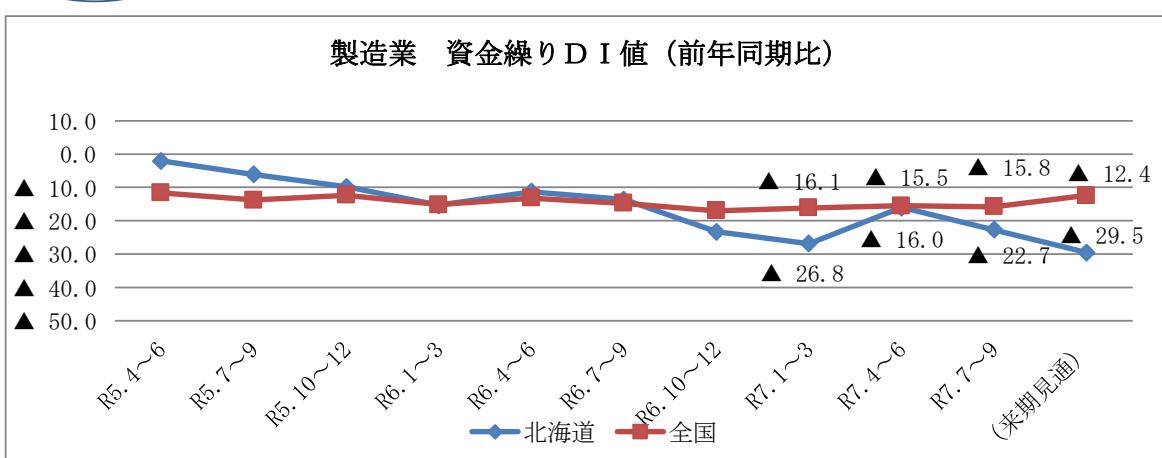
売上額



採 算



資金繰り



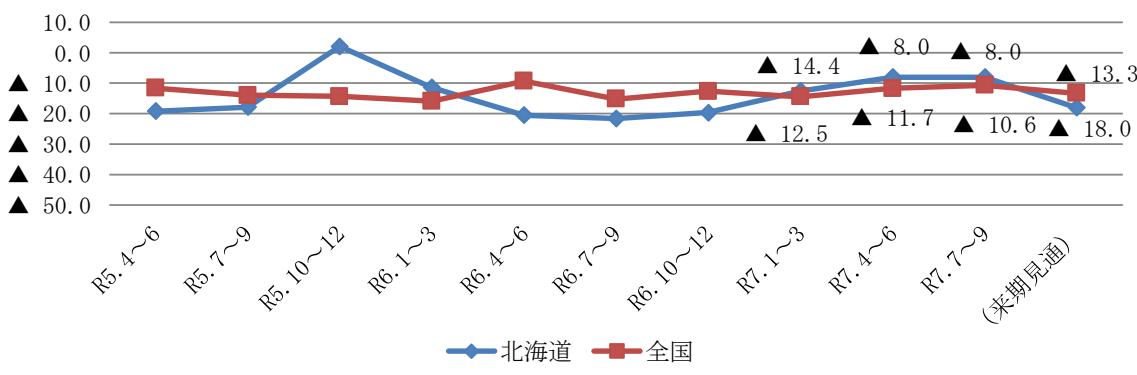
建設業

【北海道】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少

【全 国】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇

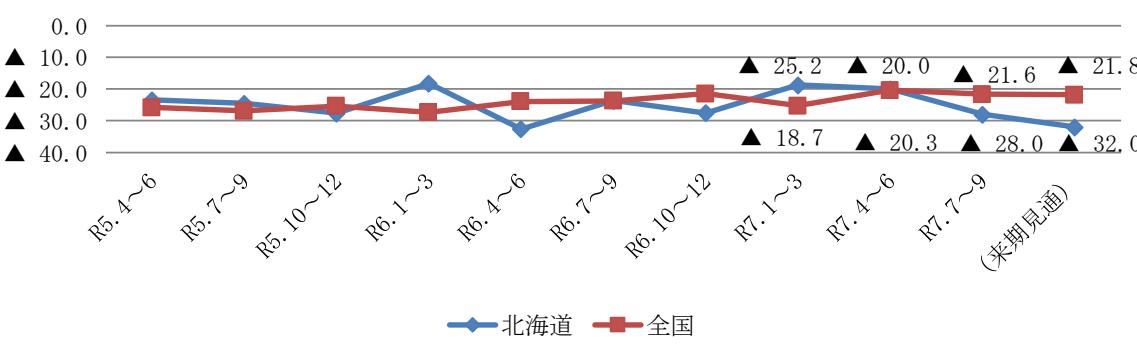
完成工事額

建設業 完成工事額D I 値 (前年同期比)



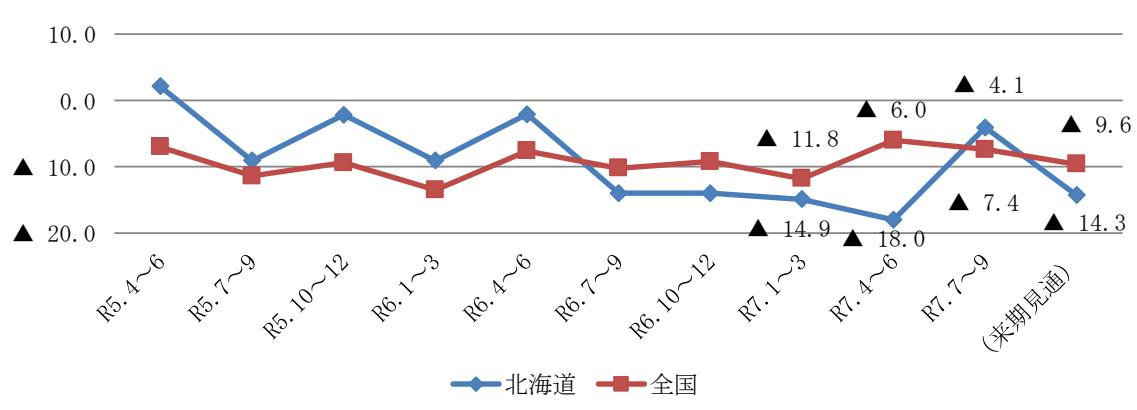
採 算

建設業 採算〈経常利益〉 D I 値 (前年同期比)



資金繰り

建設業 資金繰り D I 値 (前年同期比)

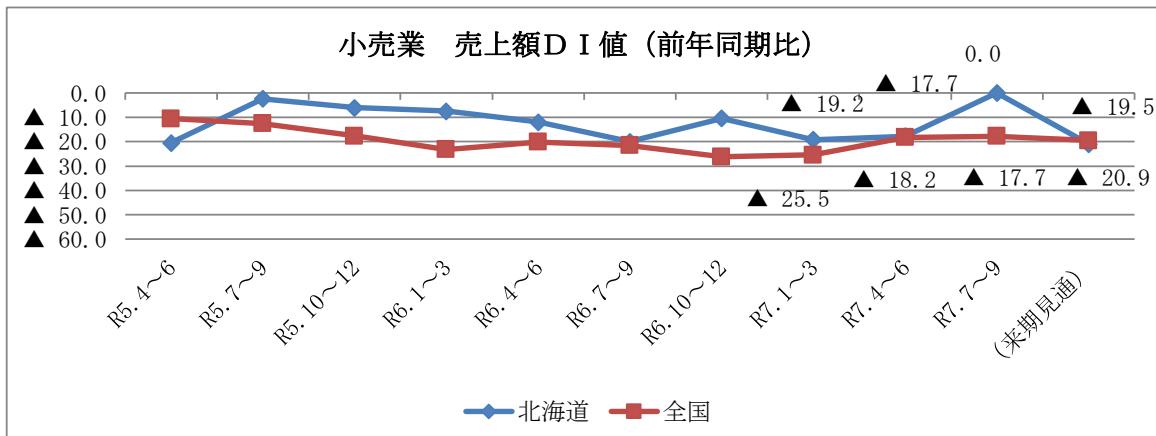


小売業

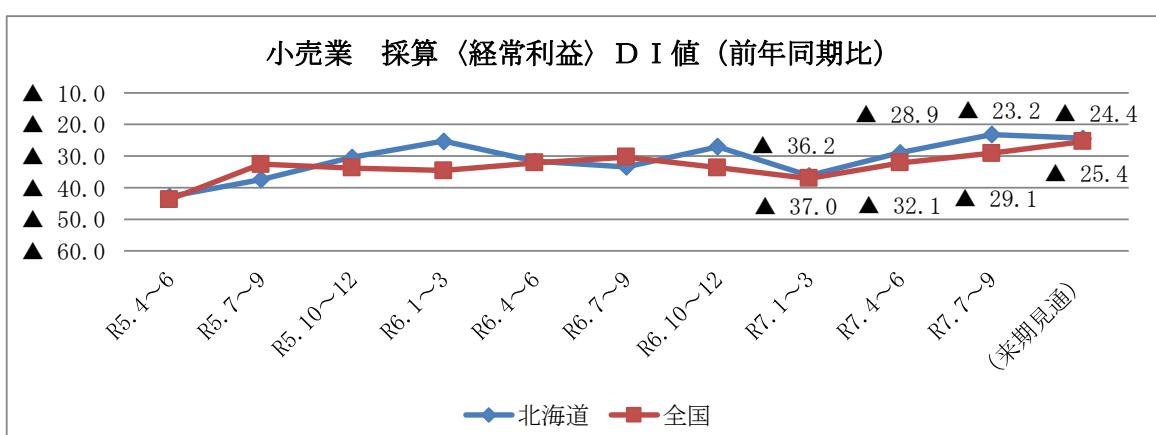
【北海道】(今期) 売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込) 売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

【全 国】(今期) 売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少
 (見込) 売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

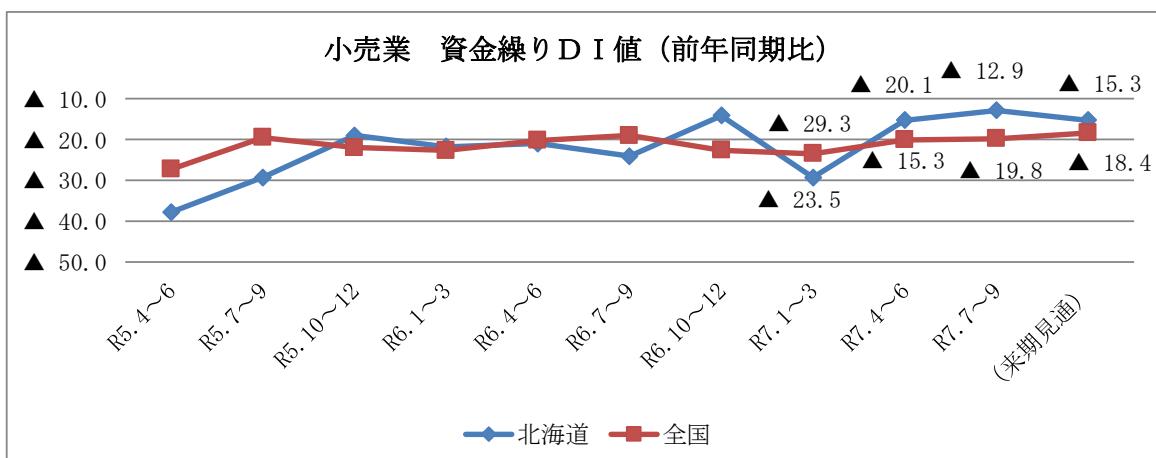
売上額



採 算



資金繰り

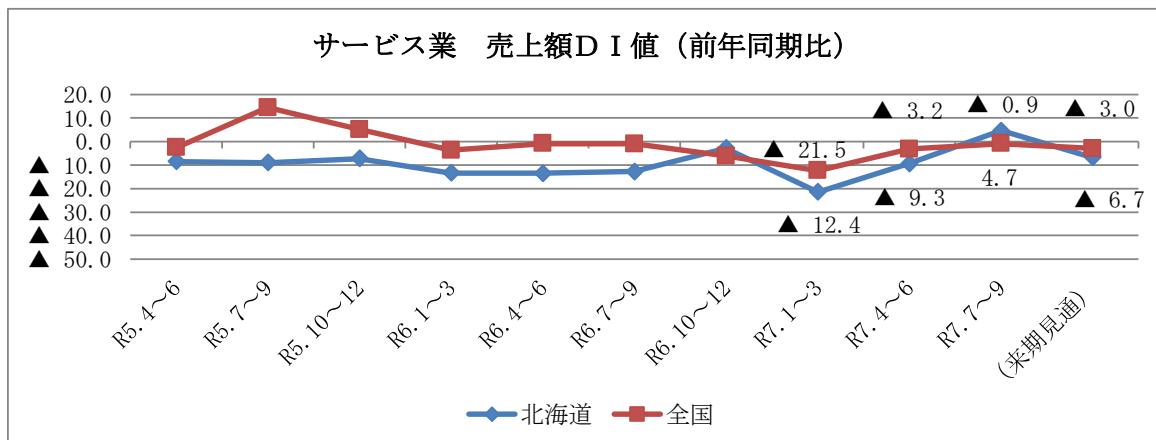


サービス業

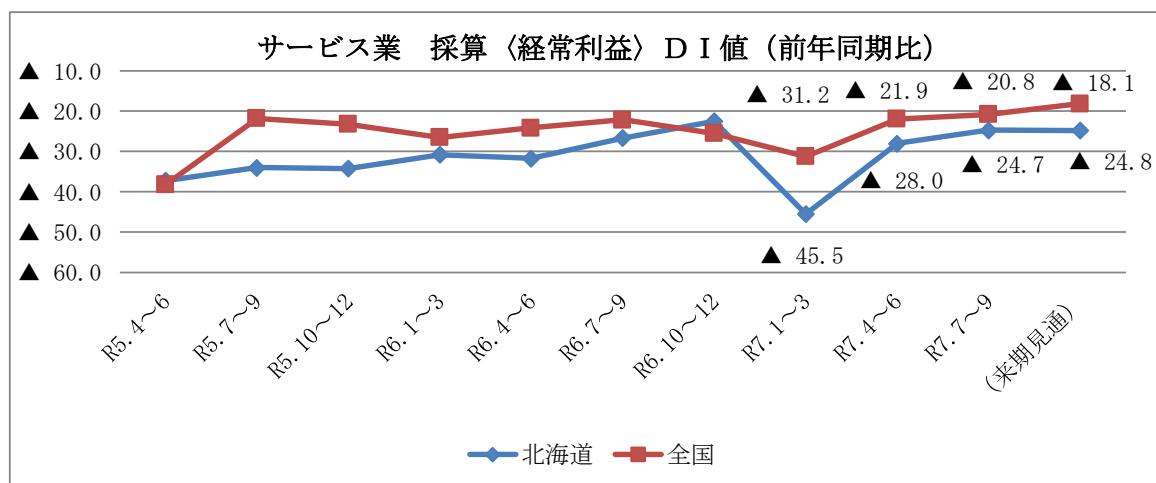
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全 国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

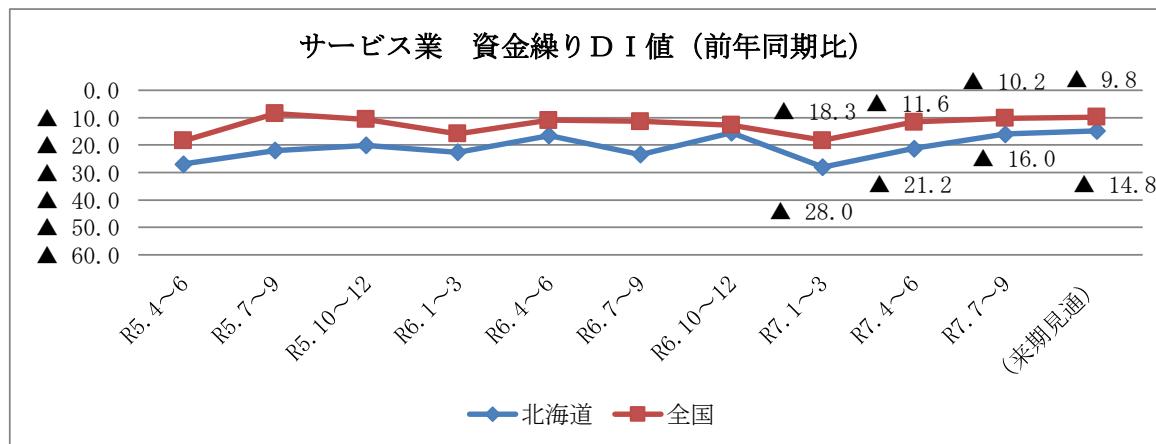
売上額



採 算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内 容
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ○材料のバターは数量が限られ、注文しても希望数を確保できていない。 ○米価の値上がりにより、給食にパン食を求められる割合が増えたことは良い材料だが、小麦、バター等主要仕入れのコスト増や包装資材の高騰等マイナス面が大きく全体としては業績が悪い。 ○日本人客は減少気味。その分、外国（白人、アジア人）人客が増加し、売上を保っている。 ○飲食店での需要低下。しかし、大企業やブランド力のある企業との話が進んでいるため、今後は期待大。 ○今期は出張が多く宿泊費の高騰に頭を悩ませています。お見積りの金額を見直す機会となり、お客様にご迷惑をおかけするようになりました。 ○物価高騰により原材料が上昇しているので業況がなかなかよくならない。 ○新たな需要の創出が必要。 ○現状大きな変化はないが、取引先からは見通しの厳しさを耳にする事が増えてきた。更なる人件費、原材料の上昇に加え、天候不順による材料の確保難という問題も出てきそうだ。 ○自社でできる商品が減少して外注になるものが多く、原材料の高騰もあり利益が減少。光熱費の増加も響いている。 ○地元羅臼港の鮮魚水揚げが激減しており、原材料（加工鮮魚）が不足している。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ○新築住宅の建設減少に伴い、当社の内装工事も減少している。採算は取れているものの、今後資材の高騰や人件費の増加が続くとやっていけない。 ○とにかく景気が悪く、工事等したいお客様はいても、予算が無くて見送るというケースが多い、どうにもならない。 ○現状は以前からの案件が竣工した為、9月見込の完工高は前期比を上回る結果となりましたが民間需要は停滞し、引き合いが減少する中で諸コスト上昇の影響もあり、今後は収益性が落ちる可能性が高いです。 ○ニセコ町内は活発な海外及び国内投資により活況である。今後の人手不足が心配です。 ○今年度は公共工事、民間工事共に受注が順調に拡大しており、業況は安定しています。 ○従業員の確保が困難・労務単価の増加・公共工事の減少。 ○去年、一昨年のような大口の仕事が今年は無いため。
	<ul style="list-style-type: none"> ○車社会、近隣の大型店で用事は足りるから過疎地域の商店街があることすら知らない住民がいる。 ○物価上昇による生活費増により、需要の停滞があり、さらに取扱商品の値上がりが続き、来店頻度減を実感します。 ○町内建築工事増の影響、平均気温の上昇による影響 ○メディアでニセコが高いと言われている影響か、新規の観光客が減っている印象。消費者のニーズに合わせた販売方法の見直しが必要と感じている。 ○既存の顧客の高齢化と物価高により需要が低迷しているように感じる。 ○ふるさと納税の返礼品により、売上が増加した。 ○町による省エネ家電購入支援事業によって、省エネ家電への買い替え及び新規購入が増加した。 ○クレジットカードやQRコード決済の増加によりキャッシュフローが厳しい時期が年間に何度も来るようになり、短期的に資金繰りが悪くなるときがある。 ○7月の猛暑の影響でエアコンの電気代が昨年と比較し28%増加した。冷菓の売上は4

- 8%増加したものの、電気代をカバーできるほどではない。POSレジの購入により利益は更に圧迫されている。
- 家計を圧迫して食料品が高く一層節約されやすい。
 - パートタイマーの最低賃金引き上げが発表されたが、ここ数年引き上げ額が大きく、パートやアルバイト頼みの当社にとって、人件費の上昇は会社の経営上大きな問題となっている。
 - 従業員の賃金引上げの世論が高まる中、売上は減少している。商品の値上げによる買い控えがおきている。
 - 本年の猛暑により来店客の無い日が多くなり、客数・売上が減少した為業況が悪化。また、間屋担当者の来店が帯広地区のホテル代の高騰により減少した為、商品選択がしづらくなり品揃えが十分にできなかった。
 - 技術が必要だが、活用を続けるだけの市場が確保できていない。
 - 来客数の減少による売上の低下。
 - 仕入れ単価が上がり、価格を少しずつでも上げるしかないが、お客様の給料は上がっていないため、来店頻度が少なくなったり、客単価が下がり、売上も減少している。

サービス業

- 高校生を育てており、日曜日休みとしている。日曜日店を稼働すれば売上増加が見込める。
- 事業主、専従者共に高齢のために、どちらかが体調が悪くなると営業ができなくなり、売上が減少。
- 顧客の高齢化による減少。
- 物価高がすべて。値上げすれば客は来ない。資金繰りが大変。いろいろやっている。
- ホテルの団体受入が減ると、修学旅行関係の売上に直結する（夏期間）宿泊・移動に予算を取られ、体験に費用をまわせないという声が旅行会社当からよく聞かれる。
- コロナ明以降、ニセコ周辺のお客様が減少。冬のリゾート価格高騰が原因なのかわからないが、日本人のお客様は少ない。外国人の方は夏も途切れないのでいる。ニーズが変わっているのか以前ほど夏休みが盛り上がりがない。
- 人口減と新規ユーザーとの相殺で売上増の見込みが望めないが、この町で1件しかない整備工場となり必要とされる分、地域に貢献をしながら維持存続を目指す企業でありたい。
- 町内の同業他社が1件廃業したことにより、客数が増加した。
- 代表取締役の変更及び業務上必要最小限の人員確保は整った。だが、赤字経営を回避するのが精いっぱい。現経営陣が黒字展開する構想を見出すことが必須である。
- 人件費、仕入単価の上昇に伴い販売価格は上げてはいるが大きく利益に結びついていない。新たな人材確保が困難な状況にあり、新規出店や新たなサービスの提供が難しい状況であると感じている。
- 今後の人件費の増加に伴い、価格の値上げも考えなくてはいけないが、値上げしたことで利用者の減少につながってしまうのではないかと思っている。
- 人口減少ですが、同業者も高齢により廃業しているのでプラスマイナスゼロです。
- 人件費が高くて、人員不足なのにさらに上がっていく。
- 資金繰りは変わらず困難である。売上は順調であるが、仕入、人件費、その他支払い等でプラスになるのは難しい。